

Catalogue No.

20035-3

瀬戸焼 seto

「せともの＝瀬戸物」。

日本の陶器文化の代名詞ともなった、
まさに陶のふるさと。

8世紀頃には陶器が焼かれていた記録が残る瀬戸地域。
その後、鎌倉時代に中国より陶器製作技術が伝えられた
のが瀬戸焼の始まりとされており、現在でも陶磁器のありと
あらゆる製品がこの地域より生み出されています。



窯垣の小径



一里塚本業窯



萬古焼 banko

作品に込められた「萬古不易」の願いの通り、
今なおその名は全国へと発信される。

元文年間桑名の豪商沼波奔山により始められたもので、作品に「萬古」の印を
押したのが語源となりました。現在は土鍋の国内総生産の80%を占めるほど盛
んなほか、細かい土を焼き固めた紫泥の急須が有名です。



ばんこの里会館



陶芸の森



信楽焼 shigaraki

土の持ち味を存分にいかした、
素朴で温かい「わびさび」の味。

信楽の歴史は奈良時代に聖武天皇が紫香楽の宮の造
営に着手されたときに始まります。室町・桃山時代には茶
陶として広く用いられ、江戸時代には信楽焼の最大の特
徴ともいえる大物の陶器づくりが盛んとなりました。



ばんこの里会館



陶芸の森